

◆ 2019年度竜神地域わくわく審査会 会議録 ◆

日時 2019年3月3日(日) 13:30~16:05
場所 竜神交流館 多目的ホール
出席者 委員 : 18名(欠席2名)
事務局 : 野田支所長、下川副支所長、川合副主幹、西村主査
オブザーバー: 桜井市議、杉本市議、今吉竜神交流館長

- 次第
- 1 会長あいさつ、審査会進め方等の説明
 - 2 ヒヤリング審査(10団体)
 - 3 集計結果発表及び付すべき条件の協議
 - 4 会長あいさつ

■議事(要約)

1 会長あいさつ、審査会進め方等の説明<省略>

2 ヒヤリング審査

(1) 竹村を明るくする会 竹上チーム

<団体> 事前質問①で問われていた「これまでの設置範囲と今後の計画について」回答する。全体としては豊田工業高校から竜神中学校の竹村地域と考えている。その中で竹上チームは竹上地域を担当している。30年度予算で竹上60台、竹下40台で設置を進めてきた。また31年度も同様の台数の設置を進めていく計画である。設置場所は中学生・高校生の通学路を中心に考えている。地図上の緑線の部分を30年度予算で実施し、竹上チームは完了しているが、竹下チームは少し未設置の部分が残っているという状況である。また、オレンジ線の部分を31年度予算で計画している。基本的には通学路を中心に、民家のない暗い田んぼ道に設置する予定である。理由は、子どもたちは登下校時だけでなく、帰宅した後に塾等で外に出る子どもたちも多いということが調査をしてわかったため。安全・安心なまちを目指して竹村全体を明るくしたいと考えている。

<委員> 昨年の12月にスタートして始まったばかりの事業であり、年間の活動実績がまだ分からないが、その後の地域の声やライトの作動状況をお伺いしたい。また、ライトのバッテリーは季節・気温等によって作動能力が変わるといわれているが、その点についてはどうか。

<団体> 地元の評価は非常に良いと聞いている。点灯時間は当初は20秒間であったが、すぐにバッテリーが切れてしまうということから点灯時間は5秒に設定変更した。照射時間は短い、暗いところで点灯したり消えたりすることで、遠

くから見ても人が通行していることがわかり、不審者が近づきにくい環境になっている。まだ今は冬場で外を歩いている人も少ないが、夏は通行者も多くなり、より効果が出ると思う。特に、豊田工業高校や豊田南高校の生徒たちがよく利用する住吉町等の枝下緑道にはすでに設置を完了しているため、夏に向けて不審者対策として効果があると考えている。設置機については問題なく作動している。夏場のバッテリーの状況については、夏を経験していないため不明だが、いい製品を使用しているし、今はメーカーのことを信じるしかない。バッテリーの寿命は2年と聞いているため、点検を行い交換の時期がくれば交換したい。保守についてはしばらくは団体が行うが、いずれは高校や中学校へ移管していきたいと考えている。

- <委員> 設置している道を利用しているが、防犯上すごく良くなったと感じている。もし、ライトが切れているのを発見したら、どこに連絡したらよいか。そういう際の連絡先を地域に示していただく方法を考えていただくと良い。
- <団体> ライトに管理番号がついているから団体に知らせてほしい。竹上区民会館に連絡いただくといい。そのように広報することも検討する。
- <委員> 運営上の問題等、総括・検証してから次の段階に入るといいと思うが、その点についてはどうか。またLEDが農作物に影響ないということだが、点灯時間が短いからか。もし、LEDが農作物に影響がないということであれば、防犯灯でいいのではないか。
- <団体> 防犯灯は市の予算に限りがあり、年に数台しか付けられない。それだと100台付けるのに10年かかる。それでは遅すぎると考えている。
- <委員> LED照明そのものが農作物に影響がないのか。それとも照射時間が短く一晩中点灯していないから影響がないのか。
- <団体> 若竹の近藤氏からはLED照明自体が農作物に影響ないと聞いている。

(2) 元気むつみ会

質疑応答なし

(3) あぐり本町

- <委員> 事前質問の中で自立については難しいとあり、地域からの援助が必要とあるが、実際にどれぐらいの補助が必要で、実際に自治区から補助はないか。
- <団体> 自治区からの補助はなく、以前は農地水の補助金で行っていたが、昨年からは減額されたため、わくわく事業を申請した。必要な経費は補助申請額である。
- <委員> 収入に計上されている8,000円は何か。
- <団体> それは野菜を販売した分の収入である。野菜を無料で配布すると捨ててしまう人がいるので有料にて販売している。50円で販売をしている。
- <委員> 販売はしているが、自然が相手ということもあり、結果として赤字になると

ということだが、自立できる目途はあるのか。地域からの要望はあると思うが、要望に対して逆に要求できること、できないことを見極めて活動してもらいたい。

- <団体> 自立の目途はない。自治区やこども園から必要ないと言われれば活動はやめる。自治区からの協力も得ているが、大きな自治区でもなく高齢者も多い中で、なかなか難しい。
- <委員> 予算書の中では苗が計上されているが、苗の自主化という内容も記載されている。これは、会員で苗を栽培されている方から購入するということか。コスモスの種について、竹中では高齢者クラブにより種が取れているが、本町は全然取れていないのか。
- <団体> さつまいも苗は外部から購入している。野菜苗は会員の早川氏が作っている。事前質問の回答書にも記載をしているが、2017年は行事や天気の都合で高齢者クラブや子ども会に種を取ってもらうことができなかった。2018年は高齢者クラブに1kgとってもらったが、コスモス畑の面積が多く足りないため購入した。
- <団体> 苗について説明します。苗を育てているが、キャベツ・ブロッコリー等を植えたが夏が暑すぎて発芽しなかった。白菜も9月長雨の長雨と台風でダメだった。自分の畑に植える用の良い苗を植えてなんとか育ったが、計画的に栽培することができず自治区イベントには一部しか出せなかった。
- <団体> 一部の苗は購入し、野菜は種で育ててもらっている。イベントに合わせて収穫を調整するのは難しい。コスモスも雨が少なかったために失敗した。
- <委員> 事前質問7について、事故について事務局への報告がマニュアル化されていないとは、どういう意味か。
- <団体> 農地水については事故があった場合、報告書を市農地整備課に提出し、それが県に報告され、逆に県から団体にどういう対応をしているか確認がある。それに対し、県から対策等について指示がある。企業とおなじように報告体系、その後の対策がしっかりしている。わくわく事業はそのような報告をどうすればいいかわからないので、聞きたいということである。
- <委員> 草刈り機を計上し、個人のを借用するのではなく団体として保有したいということであるが、管理責任についてはどのように考えているか。
- <団体> 農地水で草刈り機を16台保有しているが、国の補助金で購入しているので使用できないと聞いた。また個人の機械を借りた場合、壊れた等の責任問題が発生する恐れがあるので予算計上した。来年も1台計上したいと考えている。管理は倉庫があるので、そちらで農地水の備品等と一緒に管理していきたい。
- <委員> 事業の目的の中で、区民、子ども会、こども園、ひまわりの街と交流とあるが、ひまわりの街との交流とはどういうことか。
- <団体> ひまわりの街は高齢者が多く、昔に農作業に携わっていた方も多い。そういう方々が昔を懐かしみながら見学に来て、外に出て日にあたる機会になれば良いと考えている

(4) 元気アップ本町

- ＜委員＞ 塩分計購入について、昨年購入した3台使用状況は、長期で測定する必要があるが特定の誰かに貸出をすると不平等感があるということで貸出していないということであった。それなのに今回6台を追加で購入するのは数が合わない。また、最終的には各家庭での塩分の標準化をしてほしいと考えている。
- ＜団体＞ 塩分については年齢等により各個人で適量が異なるので難しいが、一回だけスポットで測っても分からない。例えば1か月計測して、その平均から多すぎる等を判断する必要がある。また、塩分量が高いと分かったら、また継続して計り、各個人が意識することを習慣づけることが重要と考えている。前年度は人数分をお願いしたが3台になった。一人の方が何か月も使用すると他の方に貸すことができないため、追加で計上した。6台の理由は、要綱に記載されている通り20,000円を超えると2者見積りが必要となり、申請期間も短かったため、20,000円以下に抑えるためである。
- ＜委員＞ 塩分計は、会の活動としてみんなで計測したり、個人に貸出してしばらく使ってもらって雰囲気をつかってもらいたいと思う。その結果毎日使いたいなら個人で買えばよい。そういう意味で去年は3つになった。また、メタボについて、個人のデータは管理していないかもしれないが、会全体としてはどうかについては、保健師などからアドバイスがもらえると思うので、それについて会としてどうするかを聞いたかった。
- ＜団体＞ 回答期間が短く、その間に保健師と話すことができなかった。データについては、女性など各個人にも聞きにくいので、個人で管理して、個人で保健師などに相談をしてもらっている。会としては、地域の高齢者が毎回出てきてもらうこと、継続して記録することが大事だと考えている。講師にも無理なく行うことが大事だと聞いている。塩分計についても栄養士からのこのような良いものがありますよというアドバイスから計画した。それにより参加者とその家族の意識づけができればと思っている。

(5) 野菜ひろば竹下

- ＜委員＞ 事前質問の回答の中で、野菜を自治区に販売すると結果的に区費が上がり難しいとなっているが、わくわく事業に対して市から費用の補助を受け、それを自治区に還元することになりかねない。竹下自治区であれば、そこまで区費アップにつながらないように思うが、どうか。
- ＜団体＞ 自治区への野菜の提供を考えたスタート時は、前代表の岡崎も私も農業をやっているのだから、区長や役員等でなんとかできた。しかし、今後、色々な人が役員をやるかもしれない中で、土地を持っていないとやれないなど課題が考えられた。ちょうど、その時にわくわく団体の果実会が活動をやめたこともあり、わくわく事業を活用することになった。それにより、子どもたちに対する活動にも広げることができた。決して自治区に戻そうという意図はない。

(6) 竹中脳げんき会

質疑応答なし

(7) 生き・生きライフ東田

質疑応答なし

(8) 竹中東山会

質疑応答なし

(9) 竹村を明るくする会 竹下チーム

<団体> 竹下チームは30年度の設置について、豊田工業高校の前の道に設置を進めているが、市の道路占用の許可に時間がかかり、計画が遅れている。31年度については、竹中自治区の鈴木区長とも協力しながら、通学路を中心に暗い道に設置をしていく予定である。

<委員> ライト設置について苦情等はないか。またあれば、どのようなケースがあるのか紹介してほしい。

<団体> 竹下自治区会館の近くに設置したライトについて、こども園への送迎のお母さんから、急に光り、眩しくて危ないのご指摘をいただいた。そのため、角度を調整して対応している。その他には明るくなって良いのご意見はあったが、邪魔になっているなどという苦情はない。今後、苦情があれば対応していく。

<委員> 道路沿いに設置しているということだが、道路占用の手続きで遅れているのか。

<団体> その通り。市の土木管理課と手続きを行っている。また道路際につけるので、担当課と相談しながら慎重に作業をすすめ、設置はバンドでしっかり固定している。

<委員>そもそもの主旨が農道や電柱がなく防犯灯がつけられないところということであったが、今回の計画は道路沿いになっているので主旨が違うのではないか。この道路であれば防犯灯を設置すればよいのではないか。

<団体> 30年度については、豊田工業高校の校長先生と相談して、生徒の通行量の多い場所ということで設置する場所を決めた。農道へは31年度につけることになっている。生徒の登下校の場所として優先順位を決めた。

(10) 竹村文化振興会

<委員> 事前質問の回答で講師謝礼60,000円は定例会に来ていただく講師料ということであるが、他にデータ処理指導料ということで予算計上されている。定例会では講師の先生にどのような内容をやっていただくのか。

<団体> 竹村文化振興会は5つの活動を行っているが、毎月定例会を開催している。定例会に毎回講師の先生に来ていただいて活動についてアドバイスをいただ

いている。その方は豊田土地改良区の資料室長であり、大学で講師もされている。自宅が海部郡にあるが、毎月来ていただいて定例会に参加していただいて様々なアドバイスをいただいている。初年度はデータベース化のCDに落とす作業から分からなかったため、先生に落としていただいて、それを元にPDファイルを作ったりしている。また、データベース化については別の方にも指導を受けている。

<委員> 子ども達への出前講座を見学したが、それ以外に資料作りなどの実作業を見せていただきたい。

<団体> 実作業を行っているのは会員の一部で、会員の中でPCが使えない方もいらっしゃるのが現状。そのため、定例会ではプロジェクターを使いながら研修会を行っている。メンバー全員が作業できるようになるのが理想。委員には、そういう研修の場を見ていただくといいと思う。

<委員> 11月の「竹村ちいさな旅」竹元町等史跡巡りは、団体がこういうことを掴んでいて、こういう活動をしているということを示す見学会か。

<団体> 「竹村小さな旅」は私たちが知らないことが多いため、29年度は住吉・竹町、30年度は中町、31年は竹元町を計画し、データではなく、ここではしおりを使って説明している。

<委員> 11月に中町の史跡めぐりに参加した。非常に勉強になった。また、ふれあいの場にもなっていた。是非、竹元町での史跡めぐりも楽しみにしている。

<団体> 昨年中町で行った際は中町の会員に入ってもらって行えた。今、竹元町の方が会員にいないので、是非、竹元町の方にも団体に入ってもらいたいと考えている。

3 集計結果発表及び付すべき条件協議

(1) 竹村を明るくする会 竹上チーム

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<付すべき条件>

特になし

(2) 元気むつみ会

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<付すべき条件>

特になし

(3) あぐり本町

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<付すべき条件>

特になし

(4) 元気アップ本町

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<付すべき条件>

決定事項

塩分測定計6個について補助対象外とする。補助対象経費は下記の通り。

【備品購入費】塩分測定計15,627円(6個)→0円(0個)

協議内容

4名の委員から塩分測定計は認めない旨の付すべき条件が付いたため協議。

<委員> 3台で十分だと思う。理由は生活習慣病予防の観点から、高齢になり農作業等で汗を流す機会も減ったと思うので、薄味になれることは大事である。しかし、団体の塩分測定計は、生活習慣病の健康値を試すためのデータ測定であり、個人の日々の管理をするものではないと思う。個人の日々の管理に必要であれば自分で購入すればよい。

<委員> 3台で十分だと思うが、そもそも、この考え方を団体が理解できていない。回答議論でも予算の話等にすり替わってしまう。そこを理解させる必要がある。

<委員> 団体が塩分計を6台追加購入して、どうしていききたいかの計画がしっかりしていない。委員の考え方と乖離があり過ぎると感じた。どのように活用していききたいのかが重要である。

<委員> 団体としては個人、個人に配布して長期的に計測をしたいということであった。そのため来年度も塩分計を予算申請すると予想される。アドバイスとして、数量とそれに伴う計画をしっかりと説明できるようにということは団体に伝えることができる。今年度については、ここで多数決を取りたいがどうか。

<委員> 承知した。

多数決結果

賛成12名、反対5名

(5) 野菜ひろば竹下

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<2015年度からの継続評価の対象>

継続回数の特例適用基準の『適』が7割以上を上回るため、継続回数の特例適用を「認める」

<付すべき条件>

特になし

(6) 竹中脳げんき会

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<2015年度からの継続評価の対象>

継続回数の特例適用基準の『適』が7割以上を上回るため、継続回数の特例適用を「認める」

<付すべき条件>

特になし

(7) 生き・生きライフ東田

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<2015年度からの継続評価の対象>

継続回数の特例適用基準の『適』が7割以上を上回るため、継続回数の特例適用を「認める」

<付すべき条件>

特になし

(8) 竹中東山会

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<2015年度からの継続評価の対象>

継続回数の特例適用基準の『適』が7割以上を上回るため、継続回数の特例適用を「認める」

<付すべき条件>

特になし

(9) 竹村を明るくする会 竹下チーム

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<付すべき条件>

特になし

(10) 竹村文化振興会

採択条件の 公共性・公益性の平均点が6点以上かつ総合計点の平均が12点以上を上回るため「採択」。

<補助率9割超の特例適用希望あり>

適用基準の公共性・公益性の平均点が7点以上を上回るため「採択」。

<付すべき条件>

特になし

4 会長あいさつ<省略>

【次回の予定】・第12回定例会 3月26日(火)午後7:00～ 竜神交流館大会議室

<内容>・2019年度わくわく事業の2次審査について

・2020年度地域予算提案事業について分科会協議

・退任委員のあいさつ 等

※分科会委員のみ

・第1回健康分科会 3月12日(火)午後1:30～

竜神交流館 12会議室

・第1回子ども場分科会 3月26日(火)午後6:00～

竜神交流館 21会議室